

効果を実感できる！ 好評です

# 「トマト元気液肥」<sup>®</sup>

〜広島県呉市倉橋町、

こだわりから生まれるトマト本来の味〜

(編集部)

(肥料登録番号生第86824号)



®

「トマト元気液肥」、ご使用いただいたことはありますか？ トマト栽培を行ううえで避けては通れない果実肥大期のカリ欠乏に、速効性液肥として供給できる優れたものです。そのため、葉先枯れ症や灰色かび病の予防にも効果的です。

トマトは、生育期間中にカリ成分がチッソ成分の約1・7倍も必要な作物。チッソ・リン酸・カリの成分が0・5・5・8の割合で含まれる「トマト元気液肥」を追肥に組み込むことで、通常の液肥では対応できないカリ・リン酸成分の不足を補い、健全な生育を図ることができるのです。

この度、広島県呉市の倉橋町施設野菜生産組合さんで、この「トマト元気液肥」が好評を得ているということで、早速取材させていただきました。

## カリ成分の多さが決め手に

今回、お話を伺ったのは由元農園の由元孝重さん。この組合のトマト栽培を担うリーダー的存在です。私たちが訪ねた今年の2月16日、由元さんのハウス内にはすでに赤くなった果実が1段目にずらり。でも、まだ収穫はしません。

「桃太郎が持つ本来のおいしさ・資質」を引き出すため、樹上で完全に熟すまで待ちます。それもそのはず、この組合が出荷する完熟トマトは、「お宝とまと」というブランド名で知られる倉橋の特産品なのです。

「トマト元気液肥」の使用は前作から。栽培が終わった後に樹を抜くと、土壌がかなりのカリ欠乏

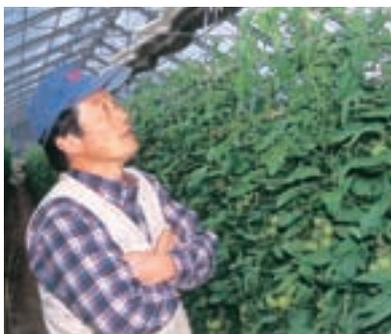


広島県最南端に位置する倉橋島は、昔「お宝島」と呼ばれていたこともあり、「お宝とまと」というネーミングもここから由来するそう。

状態になっていいるため、カリ成分の多い肥料を探していたそうです。チッソ成分を含まない「トマト元気液肥」は、由元さんの希望通りの液肥でした。

## 3段階での施用がベスト

由元さんのハウスでは葉先枯れ症が通常4段階で発生することが多く、3段階のホルモン処理前に



「トマト元気液肥」の施用のタイミングは非常に重要で、「地温を上げてからでない」と効きにくいので、夜温は13度を確保する」と話す由元さん。



品種は「ハウス桃太郎」と「桃太郎はるか」を愛用されている。ベースグリーンがくつきりと出ることが、味のよいトマトになる条件。

施用してみたところ、すぐに変化が表れました。「まず、果実がピンポン玉大の時に玉張りが変わってくる。テリ・ツヤや花色も3〜4日で変わるから驚いたよ。葉先枯れ症も6段目までもったしね」

その時点では自動点滴灌水施設は使わず、手灌水で1本ごとに、生育を見ながらかけてやるそうです。「決して安い肥料じゃないからね。ここぞという時に使ってみ

たけれど、3・5・7段と奇数段でやるか、葉先枯れが出る直前や真っ盛りの時でも効果的かもしれない。まず効果を引き出すのなら、樹が大きくなりすぎる前の3段目に施用するのがおすすめです」

果実自体にどんな変化があったのかお聞きすると、「何と比べても色上がりがいい。色・ツヤがよく、ベースグリーンがくつきりと出て、黄色を帯びたトマトになる。白っぽいと糖度が6を割ることもあるけれど、黄みが強いと糖度7のトマトが収穫できる。糖酸比が高く濃厚な味になるんだ」と、満足そうに話してくださいいます。

### 味にとことんこだわって

驚いたことに、現在の1kgの平均単価はなんと430円！一般の単価の2倍を優に超えます。味に最大のこだわりを見せる由元さんは、灌水を控え、わざと玉を小さく締めて、中身のぎゅっと詰まったおいしいトマトを作っています。「倉橋のトマトは天然の塩トマト。海のそばという立地条件から、地下水にもわずかに塩分が含まれ、土壌もミネラル豊富しかも海からの潮風で、果実はミ



由元さんのハウスは、道路を1本隔てれば瀬戸内海という立地条件にある。

ネラルの葉面散布を受けているようなもの。食味極上のトマトができるんだね」

もちろん、由元さんは自然の恩恵にあずかっているだけではありません。栽培の基本である土づくりこそがすばらしいのです。由元さんの栽培の特長は、まず畝がフラットなこと。その上に穴肥用の穴が一直線に並んでいます。触ってみると土がサクサクで、お手製の穴あけ機がずっと土中に入ってしまうほど。「栽培前に土づくりをしつかり行っておくと後が楽。いかに土をやわらかくするかが一番大切」と力説されるとおり、深耕ロータリーなどを使い分けることで、上の土と下の土をうまく循環させ、空気をたっぷり含む土づくりを行っているのです。

「お宝とトマト」に賭ける情熱

「トマト栽培はじゃじゃ馬娘を手なずけていくような楽しさがある。こちらの気持ちに添えてくれる時はうれしくて」と、本当に楽しそうに話してくださる姿がとても印象的です。「買ってくれた人が喜んで食べてくれることが一番だから。まずは下級品の底上げを図ることで、倉橋のトマトがもっともつと愛されるようにしたい」と語る由元さん、いただいた名刺には「トマトの向こうにあなたが見える」という一言が添えられていました。あなた、つまり消費者の声に常に耳を傾けようとする姿勢が、倉橋の最高のトマトを支えているのでしょう。



深耕ロータリー大、中、小でふかふかの土に。堆肥にもこだわり、オール有機の肥料に魚汁を混ぜる、後作にギニアグラスを草生栽培してすきこむなどの工夫も。

「片手でも穴肥作業ができてしまう」という土のやわらかさに驚くばかり。